

① 【熱気に包まれた那覇ハーリー】共通語版

こんにちは、しまくとぅばでニュースをお伝えします。

那覇三大祭りの一つ、那覇ハーリー。5日までの3日間、  
会場では、爬龍船を漕ぐ選手たちの力強い掛け声と  
応援する人々の声が響き、熱気に包まれました。

=====VTR スタート=====

600年の歴史があるとされる那覇ハーリーは  
航海の安全や豊漁を祈願するもので、那覇三大祭りの一つです。

那覇新港ふ頭での開催は、年々、取り扱うコンテナの数が増えたことで  
スペースの確保が難しくなったとし、今回で最後となります。

最終日の5日は、大雨が降りしきる悪天候でしたが、多くの方が詰めかけました。  
企業や団体のチームが参加する一般競漕のあと、  
航海の安全や豊漁を祈願する「御願バーリー」が行われ、  
歌にあわせてゆっくりと船が旋回しました。

そしてクライマックスは、「那覇」「泊」「久米」の3つの地域で競う「本バーリー」。  
往復600メートルのレースは、「那覇」と「泊」でデッドヒートを繰り広げます。

「那覇」が去年に続き、連覇を果たしました。

●優勝チーム「那覇」の比嘉憲敏副隊長インタビュー

「練習からみんな協力しながら、我慢してもらいながら、今までやってきましたので、  
これが力になったと思います。チームワークですね。」

今年も盛り上がりを見せた「那覇ハーリー」。  
来年は、那覇ふ頭での開催が検討されています。

=====VTR おわり→次のニュースへ=====

【園児たちが花摘み体験】

宜野座村にある県立農業高等学校で7日、  
地元の園児たちが母の日を前に、花の摘み取りと花束づくりを体験しました。

=====**VTR スタート**=====

この取り組みは、子どもたちに花摘みの体験を通して花を育てる楽しさや、  
県産の花の周知を図る目的で行われているものです。

県立農業大学校の花きコースの学生が栽培したトルコギキョウのビニールハウスには、  
去年12月ごろに植えたおよそ10品種が咲き誇っています。

7日は地元の保育園児30人あまりが学校を訪れ、  
色とりどりの花を前に子どもたちはにこやかな表情を見せ、  
学生らのサポートを受けながら両手いっぱい花を収穫すると、  
花束にする体験を行いました。

●園児インタビュー

(Q 誰にあげるの)「ママとパパ」「楽しかった」

●県立農業大学校園芸課程 花き専攻1年 花城龍星さん

「園児たちがお母さんにありがとうという気持ちをちゃんと伝えられたら一番良いと思う」

出来上がった花束を手にした子どもたちは、大事そうに持ち帰っていました。

=====**VTR おわり**=====

お母さんたち、うれしかったですよね。

しまくとぅばでニュースをお伝えしました。

またん うがなびらたい。ゞ

①【<sup>ちむ</sup>肝どんみかする <sup>なふあ</sup>那覇ぬ <sup>ハーリー</sup>ハーリー】しまくとぅば版

<sup>ちゅー</sup>今日 <sup>うが</sup>拝なびらたい。<sup>しまくとぅば</sup>島言葉さーに <sup>みーし</sup>新知らし <sup>ついて</sup>伝ーやびら。

<sup>なふあ</sup>那覇ぬ <sup>さんでー</sup>三大 <sup>むゆー</sup>催しぬ <sup>ていー</sup>一つい、<sup>なふあ</sup>那覇ぬ <sup>ハーリー</sup>ハーリー。<sup>ぐにち</sup>五日まで

<sup>みっちゃ</sup>いぬ <sup>うえーだ</sup>三日ぬ 間、

<sup>ハーリー</sup>ハーリー庭うてー、<sup>ふえんさ</sup>隼 <sup>くー</sup>漕ぢゆる <sup>いらびにんじゅ</sup>選人数ぬ <sup>てー</sup>堪ぬ <sup>あ</sup>在る

くいー  
声とう

いさ っちゅ 人ぬちゃーぬ 声ぬ 響ち、肝ぬ どんみかさつ  
とーいびたん。

=====VTR スタート=====

るっぴやくにんめー なま つい 連るがゆんでい さつとーる 那覇  
ぬ ハーリーや

とうげー かりゆし 魚ぬ 世果報 願ゆすい  
やてい、那覇ぬ 三大 催しぬ 一ついやいびーん。

なふあみーんなどう とうんどー 催しえー、年々、取い

あついか 扱ゆる クンテナぬ 数ーたくとう

ばす とう ぐり 成たんでいち、今年さーに 終わい 成いびー  
ん。

すいー ふいー ぐにちえ うふあみ ふ ついづい ちゆる やな上つい気  
やいびーたすいが、多 くとぬ 人ぬちゃーぬ 押し寄しやび  
たん。

あちね ぐみ う ぐみ 人数ぬ 出ゆる 御万人船

すーぶ あとう  
勝負ぬ 後、

とうげー かりゆし 魚ぬ 世果報 願ゆる

「御願<sup>うぐわん</sup>バーリー」ぬ 行<sup>うくな</sup>ーてい、

ハーリー<sup>はーりー</sup>歌<sup>うた</sup>んかい 合<sup>あー</sup>ち よーんなー 船<sup>ふに</sup>ぬ 巡<sup>みぐ</sup>やびたん。

あんさーに 末<sup>すい</sup>番<sup>ばの</sup>ー、「那<sup>な</sup>覇<sup>ふあ</sup>」「泊<sup>とう</sup>」<sup>まい</sup>「久<sup>く</sup>米<sup>にん</sup>村<sup>だ</sup>」ぬ 三<sup>み</sup>村<sup>むら</sup>さー  
に 抗<sup>あらが</sup>ー 合<sup>え</sup>ーする 「本<sup>ふん</sup>バーリー」。

行<sup>い</sup>ち 戻<sup>むど</sup>い 六<sup>る</sup>百<sup>びやく</sup>ミートウルぬ 勝<sup>す</sup>負<sup>ぼ</sup>ー、「那<sup>な</sup>覇<sup>ふあ</sup>」とう 「泊<sup>とう</sup>」

うてい 良<sup>い</sup>ー 勝<sup>す</sup>負<sup>ふ</sup>さびーん。

去<sup>く</sup>年<sup>じゆ</sup>んかい うち 続<sup>つ</sup>ち 「那<sup>な</sup>覇<sup>ふあ</sup>」ぬ とう 勝<sup>か</sup>ちやびたる。

● 勝<sup>か</sup>ち ハーリー<sup>にんじゆ</sup>ー人数<sup>な</sup> 「那<sup>な</sup>覇<sup>ふあ</sup>」ぬ 比<sup>ふい</sup>嘉<sup>ぢや</sup>憲<sup>け</sup>敏<sup>びん</sup> 脇<sup>わち</sup>勢<sup>し</sup>頭<sup>どう</sup> 聴<sup>ち</sup>ち廻<sup>ま</sup>  
い

「稽<sup>ち</sup>古<sup>く</sup>から 皆<sup>ん</sup>っし 心<sup>く</sup>打<sup>く</sup>合<sup>う</sup>ーしがちー、 堪<sup>く</sup>ーてい 呉<sup>く</sup>やが  
ちー、今<sup>な</sup>までい っし 来<sup>ち</sup>ーびたくとう、

此<sup>く</sup>りがどう 力<sup>ち</sup> 成<sup>な</sup>たるんでい 思<sup>う</sup>いびーん。肝<sup>ち</sup>揃<sup>む</sup>ーやいび  
ーんやー。」

今<sup>く</sup>年<sup>ん</sup> 華<sup>は</sup>ー ちやる 「那<sup>な</sup>覇<sup>ふあ</sup>ぬ ハーリー」。

来<sup>や</sup>年<sup>の</sup>ー、那<sup>な</sup>覇<sup>ふあ</sup>新<sup>み</sup>港<sup>ん</sup> 通<sup>な</sup>堂<sup>とう</sup> うとーていぬ 催<sup>む</sup>しぬ 吟<sup>じん</sup>味<sup>み</sup>さつと  
ーいびーん。

## 【語彙】

- ・肝(ちむ)どんみかすん：心をドン(太鼓の音)と鳴らす。
- ・三大(さんでー)：外来語扱い。沖縄語では「三箇(さんか)」「三村(みむら)」「三平等(みひら)」のような、三つの物をセットとして表す語彙は存在し、また「一大事(?いちでーじ)」など漢語音読み語も存在するが、「三大〇〇」という表現は無い。
- ・三日(みっちゃ)：1日の三倍の長さ。暦の「3日」は「さんにち」という。
- ・間(?うえーだ)：距離または時間の、起点から終点までを指す。なお「間(?えーじゃ)」は空間的な中間、隙間を指す。語源は同じで意味が異なる別単語。
- ・庭(なー)：1. 農家の前庭。2. 広場を意味する接尾辞。「?うしなー：闘牛場」「すいまなー：相撲会場」「?あすいびなー：村芝居や毛遊びをする村の広場」。
- ・ふえんさ：通常ハーリーでは爬龍船のことは「ふに」としか言わず、「はーりーぶに」とは言わない(※意味は通じる)。ハーリー歌の歌詞の中では、「ふえんさ ※ハヤブサのこと」という美称辞で爬龍船を呼称する。「とうまいぬ ふえんさ」「くにんだ ふえんさ」「なーふあぬ ふえんさ」「うふんみ ふえんさ」等。漢字から意味がわかりづらいので、爬龍船(ふえんさ)とルビを振っても良い。普通「ふえんさー」と伸ばすが、これは小さくかわいいものに親しみを込める言い方で、部外者が爬龍船を美称辞として敬うのであれば「ふえんさ」が良い。
- ・?いらびにんじゅ：選ばれた人々。選手たち。那覇と久米のハーリーでは外来の漁夫を臨時に「?いらびにんじゅ」として雇うこともあった。
- ・?いさみゆん：励ます。激励する。
- ・るっぴやく：「るっぺく」とも。通常は「一銭二厘」のこと。
- ・だんぢゅ嘉例吉：誠にめでたいことの意。ただし、航海安全を願う歌においては「安全な航海」そのものを指す。「嘉例吉」は慣用の当て字、「嘉利吉」でも可。
- ・数(かじゅ)ーゆん：1. (前、予定より)増える。2. 数える。普通「読(ゆ)ぬん」を用いる。
- ・?うちぐみー：事業などの組合を作ること。
- ・〇〇にんじゅ：～の一団。～のグループ。また、その構成員。
- ・ハーリー?うた：ハーリーの時に歌う祈願歌および勝って帰る時に歌う歌のこと。琉歌形式なので「?うた」と呼称する。
- ・すいーばん：1. ビリ。2. 一つの催し物の中で最後の演目、イベント。
- ・くにんだ：久米村。久米三十六姓の集落。ただし通常「くみ(or くに)」とは呼ばず、ハーリーにおいても普通「くにんだ」と称される。
- ・?あらがーえー：競い合うこと。競争。
- ・るっぴやくミートウル：千九百八十尺(しんくーひゃくはちじゅーしゃく)でも可。
- ・いーすーぶ：接戦して勝ち負けのつきにくい勝負。
- ・脇(わち)：役の階級が一つ下を表す語。脇地頭(わちぢとうー)など。

- ・勢頭(しーどう)：かしら。頭目。船頭(しんどうー)ではない。
- ・ちちまーゆん：聞き回る。秘密などを、あちこちから聞き出す。「ちちまーい(聞き回り)」をインタビューや取材の訳語としたい。
- ・くくる?うちゃーすん：心を合わせる。協力する。
- ・ちむずりー：心を合わせること。協力。
- ・連用語幹+あがちー：(～し)ながら。サ行動詞は「連用語幹+i+がちー」。
- ・はねーちゆん：華やぐ。にぎやかになる。
- ・じんみ：1. 協議。2. 調べ糺すこと。また、裁判で善悪を糺弾すること。

=====VTR おわり→次のニュースへ=====

## ②【園児ぬちゃーぬ 花摘みぬ 試し】

ちぬ じゃすぬ あ きんりついのーぢよーでーがっこー しちにち  
宜野座村んかい 在る 県立農業大学校うとーてい 七日、

しま いんじ あやー ふいー はなついで  
島ぬ 園児ぬちゃーぬ 母ぬ日ぬ まーどう、花摘みとう

はなたばいぢゆく たみ  
花束作い 試しさびたん。

=====VTR スタート=====

う くぬ つくわ はなついで たみ とう  
其ぬ 企めー、子ぬちゃーんかい 花摘みぬ 試し 通ーち、

はな すだ  
花 育ていゆる ういーりきさとう、

うちなーきんすだ はな とうゆ たみ うくな くとう  
沖縄県育ちぬ 花 鳴響まする 為んかい 行ーとーる 事や

いびーん。

きんりついのーぢよーでーがっこー はなぎくわ がくしー し た  
県立農業大学校ぬ 花木課ぬ 学生ぬ 仕立ていたる トウ

ルクヂチョーぬ ビニールホースイなかえー、

くじゆ しわーすい じぶん うい とうー しな さ  
去年 師走ぬ 時分に 植ーたる いーくる 十ぬ 品ぬ 咲ち

かん  
被とーいびーん。

しちにち しま ふいーくいんじ さんじゅーにん ?あた がっこーじ たずい  
七日えー 島ぬ 保育園児 三十人 辺いぬ 学校所 訪にや  
一に、

いるかずい いるどうい はな めーな つくわ われ がう  
色数ぬ 彩ぬ 花前為ち 子ぬちゃーや 笑ー顔さーに、

がくしーたー かしー ?う むるていー はな む  
学生達ぬ 加勢 受きやがちー 諸手ぬ みー花盛やーに、

はなたばい な たみ  
花束 為する 試しさびたん。

## ● 園児聴ち廻い

たー くい たーりー  
(Q誰んかい 呉ゆが)「?あやーとう 大人」「ういーりきさた  
ん」

## ● 県立農業大学校園芸課程 花木専攻一年 花城

どうーせー  
龍星

いんじ  
「園児ぬちゃーが あやーんかい にふえーでーびるんでい  
る 思い 確いとう ついて ゆ いちばん ゆ  
思ゆさ」

ん はなたばい ていー む つくわ  
生まれたる 花束 手んかい 持っちやる 子ぬちゃーや、

あたら む むどう  
惜さぎさく 持っち 戻とーいびたん。

## 【語彙】

- ・園児(いんじ)：日本語からの外来語扱い。非グロッタルストップサウンド。
- ・宜野座村：泣く泣く「ぢぬじゃすん」とする。「ぢぬじゃむら」だと「金武間切宜野座村」の意となり、現在の宜野座村の領域と一致しない。「村(すん)」という沖縄語は存在しないので、日本語からの外来語としたい。
- ・県立(きんりつい)、農業(のーぢょー)、大(だ)学校(でーがっこー)：すべて日本語からの外来語扱い。翻訳すると長ったらしくなるので諦めた語群。
- ・まーどう：前(に)。～にならないうち(に)。～する前(に)。
- ・つくわぬちゃー：親に対しての子が「つくわ」、大人に対してのこどもが「わらび」だが、今回は単に園児ではなく母の日に対しての子なので「つくわ」を採用。
- ・はなぎ：花卉。花を観賞するために植える木。
- ・したていゆん：1. 特別に作る。家・着物・位牌など、金のかかるものを作る。2. 飼育する。3. 栽培する。
- ・品(しな)：1. 商品、物品。また、物品の種類。2. 物品の種類を数える接尾辞。3. 品性。
- ・保育(ふいーく)：日本語からの外来語扱い。
- ・さちかんぢゆん：咲きこぼれる。咲き乱れる。いっぱい咲く。
- ・むるていー：両手。二つしかないもののセットを表す接頭辞は「むる」を用いる。「むるふ：両方の帆」「むるみー：両目」。
- ・〇〇ぬ みー：〇〇いっぱい。「かーみぬ みー：甕いっぱい」「わたぬ みー：お腹いっぱい」
- ・園芸(いんぢー)、課程(くわてー)、専攻(しんこー)：すべて日本語からの外来語扱い。翻訳すると長ったらしくなるため諦めた語群。
- ・?んまりゆん：1. 生まれる。2. 出来上がる。三線作りやお菓子作り、黒糖作り、泡盛作りなどで用いる。
- ・むどうゆん：1. 戻る。帰る。「?いちゆん(行く)」の反対語としては「けーゆん(帰る)」よりも「むどうゆん」を用いる。2. 離婚して実家へ帰る。

=====VTR おわり=====

あや<sup>たー</sup>ー<sup>?うっ</sup>達や、嬉<sup>はずい</sup>さ さる 筈 やいびーんやー。

しまくと<sup>うば</sup>うば 島言葉さーに 新<sup>みーし</sup>知らし 伝<sup>ついて</sup>ーやびたん。

またん<sup>うが</sup> 拝なびらたい。べ